



相ノ木っ子だより

平成30年度
学校だより
10月号
上市町立相ノ木小学校

挨拶で築く信頼関係

「校長先生、挨拶隊してもいいですか?」「はい、どうぞ」

毎朝、児童会の挨拶運動に数名の1、2年生が参加しています。一々わたしに請わなくてもよいのですが、決まって上記の言葉を発してから始めています。登校してくる子供たちとハイタッチしながら元気よく挨拶。その様子は、うれしそうで、そして誇らしそうです。

10月4日、5名の民生児童委員の方々が朝来校され、児童玄関前で子供たちと挨拶を交わしました。1学期にも行っていただき、2度目となります。その際、委員の方から「子供たち、挨拶するようになったのう」というお褒めの言葉とともに、「挨拶せん子は、なーんせんがんよ」との指摘も受けました。実際、子供たちは全体的に素直で明るい挨拶を毎朝わたしとしていますが、挨拶の仕方はそれぞれ多様なものです。怒鳴るかのように大声で挨拶する子、満面の笑みで挨拶してくる子、痛いくらいに力強いハイタッチをする子、口があまり開かずもごもごとした挨拶をする子、声は出ないけどしっかりハイタッチする子。相手との関係性、習慣付け、成長による照れくささ、その時々体調等、いろいろな要素が子供たちの挨拶の仕方に関係してきます。ですから、こんな挨拶が一番よいとは言えないと思うのです。でも、挨拶を交わすことはとても大切です。

将来、AI（人工知能）が人間のしている仕事を行うようになり、人が実際にする仕事が減ってくる、変わってくるということが言われています。確かに人が行うよりもAIがした方が正確だったり、便利だったりするかもしれません。しかし、人にしかできないことはあります。人と人との関わり、コミュニケーションもその一つです。お店でロボットがお客さんに対応して挨拶をしますが、そこには相手への思いやりや心遣いを感じることはできないでしょう。人と人との関わりを強くする挨拶は、とても大切であり、将来なくなることは考えられません。作家藤本義一さんは、次のように言っています。

デジタルな関係では友人はできません。

やっぱりアナログ的に連続性をもって顔を合わせ、

相手の表情を見ながら会話することでしか、

友達、恋愛、あらゆる人間関係は成り立ちませんよ。



「校長先生、これで子供たち歩きやすくなったやろ」「ありがとうございます」

先日、子供たちの登校後、地域の方々が大きく伸びて通学路をふさいでいるススキを汗だくになりながら刈ってくださいました。その他にも、前述の民生児童委員の方々、秋の交通安全で見守ってくださった方々、たくさんの方が子供たちのことを考え、地域の宝として大事にしてくださっています。その思いや働きに応える一番の方法が、地域の方々への挨拶だと思います。そして、子供たちが家族、友達、わたしたちとの信頼関係をしっかり築く一步一步が、毎日の挨拶だと考えます。挨拶の形はそれぞれ違うでしょうが、相手への誠意、信頼を投げかける、自分のできる挨拶をしっかりとしていきたいものです。

ぼくはだれでも、いつも笑顔でおじぎをするんだ。

そうしたら、中にはぼくにつられて笑顔になる人だっている。

これは、2歳の頃から顔にアザができ、人からじろじろ見られたり、避けられたりしてきた藤井輝明さんの言葉です。これは、藤井さんが見つけた人との関わり方の一つです。このような関わり方を行ってき、藤井さんは、顔に病気や障害をもつ人たちに対する差別や偏見をなくすための講演活動を全国でするまでになったそうです。積極的に自分ができることを見だし、一歩前に出ることで、元気が出てくるのではないのでしょうか。挨拶や笑顔、すてきな人の行いであり、人と人をつなぐ大切なものですね。

人間同士のつながりは、AIなんかには負けないぞ！



三年先の稽古



「校長先生、〇〇さんが勝つと思うよ」「どうして?」「だって、強そうもん」

わたしの傍らに座った1年生が、上級生の取り組みでこう話しかけてきました。しかし、〇〇さんより小柄な対戦相手が勝ち、1年生はびっくりしていました。

10月2日に2・4・5年生、10月5日に1・3・6年生の相撲大会を行いました。たくさんの家族、地域の方が来校され、子供たちを応援してくださいました。前述のような大番狂わせ、力強い投げ、俵につま先で残る粘り等、どの取り組みも同じものではなく、見ているこちらにも手に汗握る、大いに盛り上がった今年の大会でした。

考えてみると、相撲は対一の真剣勝負、互いの力と技と意地のぶつかり合いが繰り広げられます。体一つでの勝敗は、言い訳の利かないものなのかもしれません。1年生は力強さという面では、まだまだかわいらしいところがあり、学年が進むにつれ、取り組みに1年ごとの成長が感じられます。特に6年生が組み合う時や相手を倒す時は、大きな音が出るくらい激しいです。これまで6年間の対戦の積み重ねというもので感じさせてくれます。

他の小学校にはない本校の相撲大会は、昭和60年まで遡ります。元々明治時代から地方相撲が盛んであった相ノ木地区。今でも力士の碑が3体残っています。そんな地域の特性、相撲に対する思いを今に残そうと、昭和60年に土俵が作られ、34年間相撲大会を続けています。子供たちは、その長い歴史の1ページを飾りながら、力強さや粘り強さを培っているわけです。

話は変わりますが、火曜日から木曜日のいきいきタイムに子供たちはさわやかランニングを行っています。自分のペースで3分間グラウンドを走ります。ほとんどの子が黙々と走り続けているのですが、1分間ほどで止まってしまう子や始めから歩き出す子がいます。自分の持久力、体力を向上させるために、走り続けることを続けてほしいですし、「継続は力なり」を体感してほしいです。

大相撲の九重親方が「三年先の稽古」という言葉について次のように語っています。

「三年先の稽古」って言葉があるんだけど、
今日、明日とか一週間くらいやったってすぐには力がつかない。
毎日毎日稽古することによってようやく稽古の貯金ができ、
本当の相撲の力ができてくる。
そういう信念をもってがんばれる子はよくなっていく。

何もアスリートになってほしいとは思いませんが、成長期である今がんばることが、将来の財産になると考えます。年を重ねてきたわたしも、現在そこそこ運動することができますが、小さな頃から運動や遊びで培ったものがあってこそだと感じています。それは、学習や生活においても言えることでしょう。遊び方や生活の仕方が昔と変わってきていますし、子供たちが将来に思いを馳せることは難しいことかもしれません。また、大人になってから努力して大成する人もいます。でも、今年度当初に話した「自分を大切にする」ために、努力を惜しまず、励み続ける子供たちであってほしいと願います。



行事予定(10月中旬～11月中旬)

- 10月12日(金) 歯科検診
- 19日(金) 就学時健診
- 24日(水) 学習参観・学校保健委員会
- 26日(金) 健康・運動能力向上支援事業(1・2年)
- 30日(火) 町文化祭(～11/4)
- 11月 7日(水) 小学校教育課程研究集会(児童休業日)
- 16日(金) 学習発表会・PTAバザー

